

## 平成28年度 財団せせらぎ 助成金使用報告書

所属	いのちのがっこう	職名	代表	助成金額	20万円
氏名	竹内久理子	印 メール アドレス	kuririzm@yahoo.co.jp		
研究課題（申請書に記入した内容を記入すること。）					
温故知新。ベトナムの少数民族に見られる衣服を自給する文化を調査し、人と地球に優しい衣生活のあり方を普及する。					
助成金使用実績の概要（日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。）					
<p>1) ベトナムの少数民族に見られる衣服を自給する文化を調査</p> <p>平成28年9月23日～10月1日 ベトナム北部山岳地帯に住むモン族、ザオ族の村に滞在し衣服を自給する文化を調査 少数民族の暮らしに触れ、民族服に見られるアイデンティティを取材し、刺繍や藍染めなど民族服の作られる工程を学びました。</p> <p>2) 人と地球に優しい衣生活のあり方を普及</p> <p>平成28年11月3日～6日「アジア山岳民族の衣と布」と題した展示会を開催し、調査結果を発表。手仕事より生まれた衣服に触れていただけるような展示スタイルで、素材そのものや民族服、そして、工程をパネル展示しました。</p> <p>使い捨てのような衣生活の見直し、どのような衣生活へ向かうのか考える機会を提供しようと、「映画トゥルーコスト～ファストファッションの真実～」の上映会を開催。</p> <p>使い捨てのような衣生活の見直しにとどまらず、環境問題、人権問題などの現代社会の問題を、ファッションという側面から知ることが出来き、どのような衣生活を選択していくのか種をまくことができました。</p> <p>一朝一夕にはいかない課題ではありますが、現状の問題を共有し、持続可能な衣生活を各個人が第一歩を歩み出すことで人と地球にやさしい衣生活へ移っていくことを、展示会を通してお伝えしました。</p> <p>かつての日本に見られた、衣服を自給し手作りする文化。近代化の中急速に失われつつありますが、アジアの山岳民族にはその暮らしがまだ残っていました。過去でもあり、未来でもある、温故知新の衣生活のさらなる普及のため尽力していく次第です。</p> <p>この調査展示をきっかけに、平成29年1月にも、東京都品川区にて展示会を開催する運びとなりました。研究課題への取り組みをサポートして頂き、厚く御礼申し上げます。</p>					
助成金を使用した成果に関する発表（インターネットに公表されている場合はURLを記載すること。）					
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)		
いのちのがっこう 竹内久理子	アジア山岳民族の衣と布展	<a href="https://inochinogakkou.jimdo.com/イベント/">https://inochinogakkou.jimdo.com/イベント/</a>	2016年11月3日～6日		